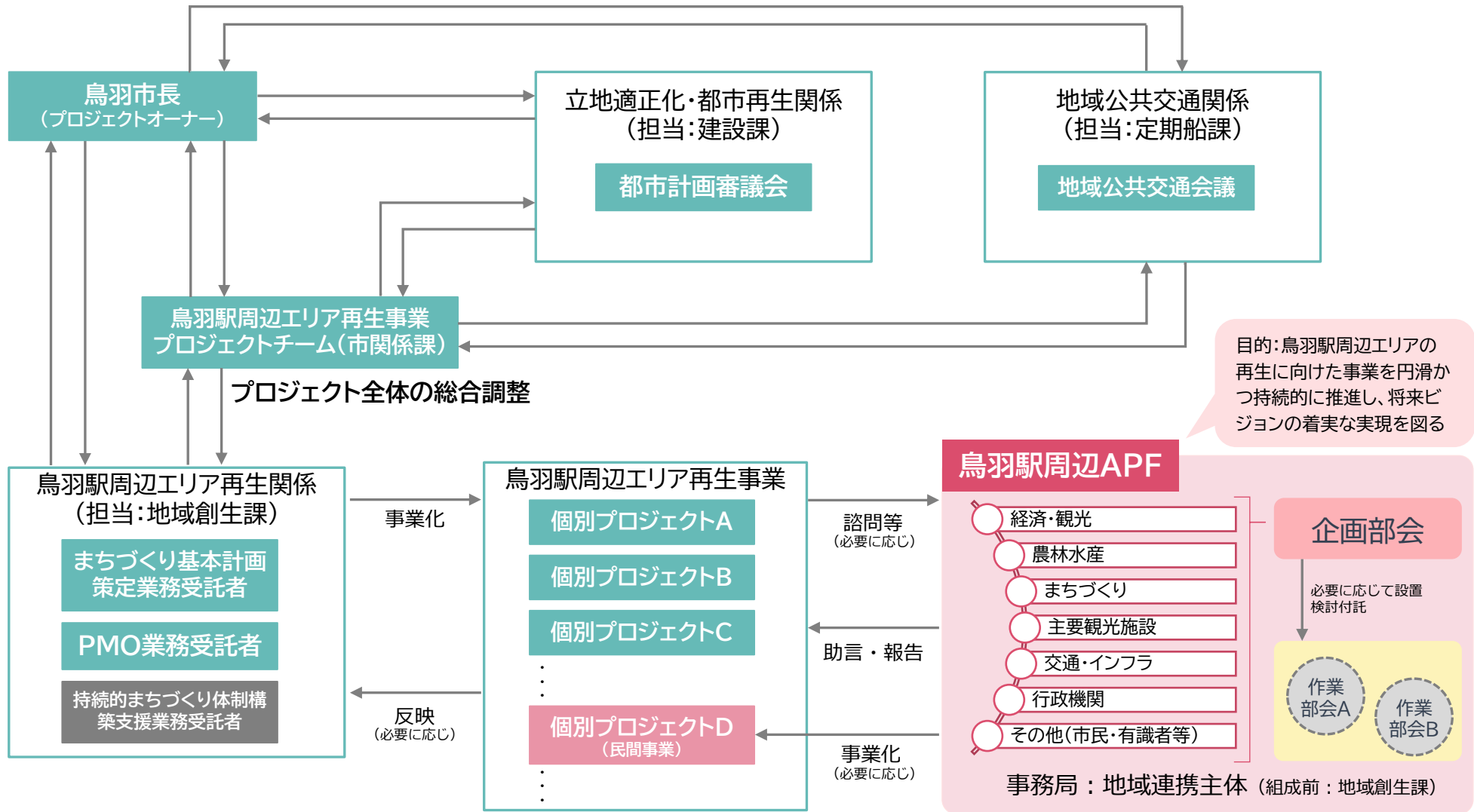


鳥羽駅周辺エリアの活性化に向けた推進体制

鳥羽駅周辺エリアの活性化に向けた推進体制

庁内プロジェクト全体の調整を行う「鳥羽駅周辺エリア再生事業プロジェクトチーム」を継続するとともに、鳥羽駅関係事業の円滑かつ持続的な推進とビジョンの着実な実現を図るため、関係団体から30代～50代を選出して構成する「鳥羽駅周辺エリアプラットフォーム」を設置し、官民一体となった推進体制を構築。



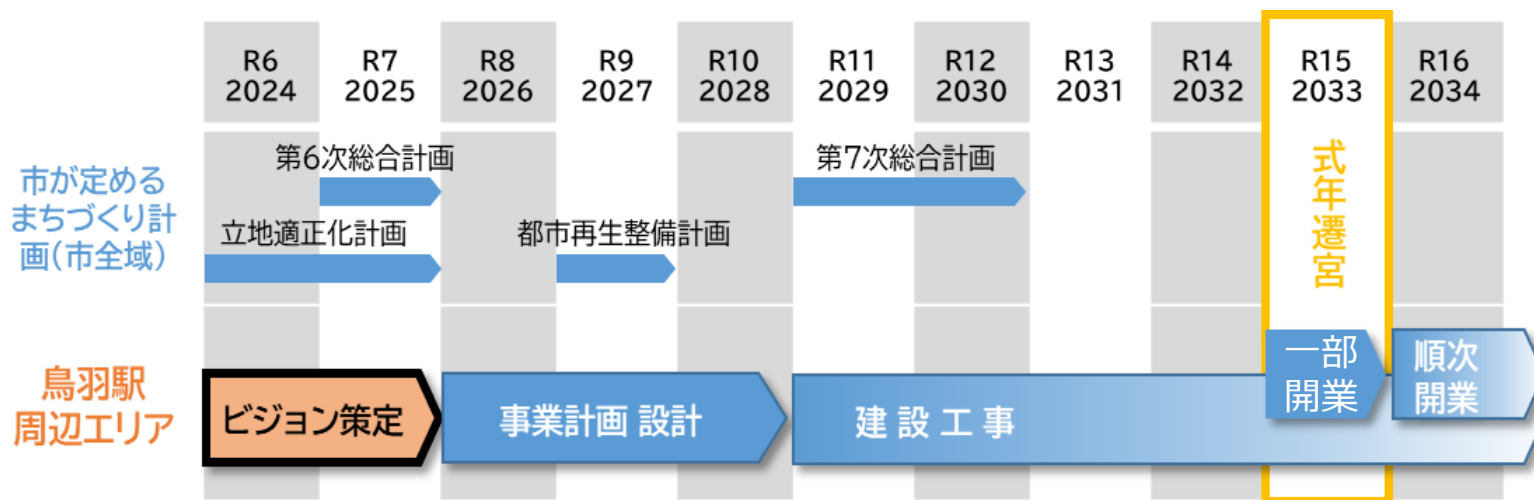
(参考) 鳥羽駅周辺エリア再生ビジョンについて

【策定の目的】

- 人口減少等の課題や今後予想される社会環境の変化を踏まえ、交通・観光・歴史文化の拠点である鳥羽駅周辺エリアは地域内外の交流活動や経済活動の核として活性化が求められている。
- 多様な主体による様々な取り組みとの連携・協働を通じ、鳥羽駅周辺エリアを更なる魅力・価値であふれる場とするため、エリアの将来像を構築し、その実現に向けた取り組みを着実なものとする。

【目標年次・スケジュール】

- 2050年の社会を展望しつつ、2040年を目標とする。
- 市が定めるまちづくり関係計画等と整合を図りながら、2025年度中にビジョンを策定。
- 神宮式年遷宮がある2033年の一部開業を目指して、事業計画の設計・工事を進める予定。

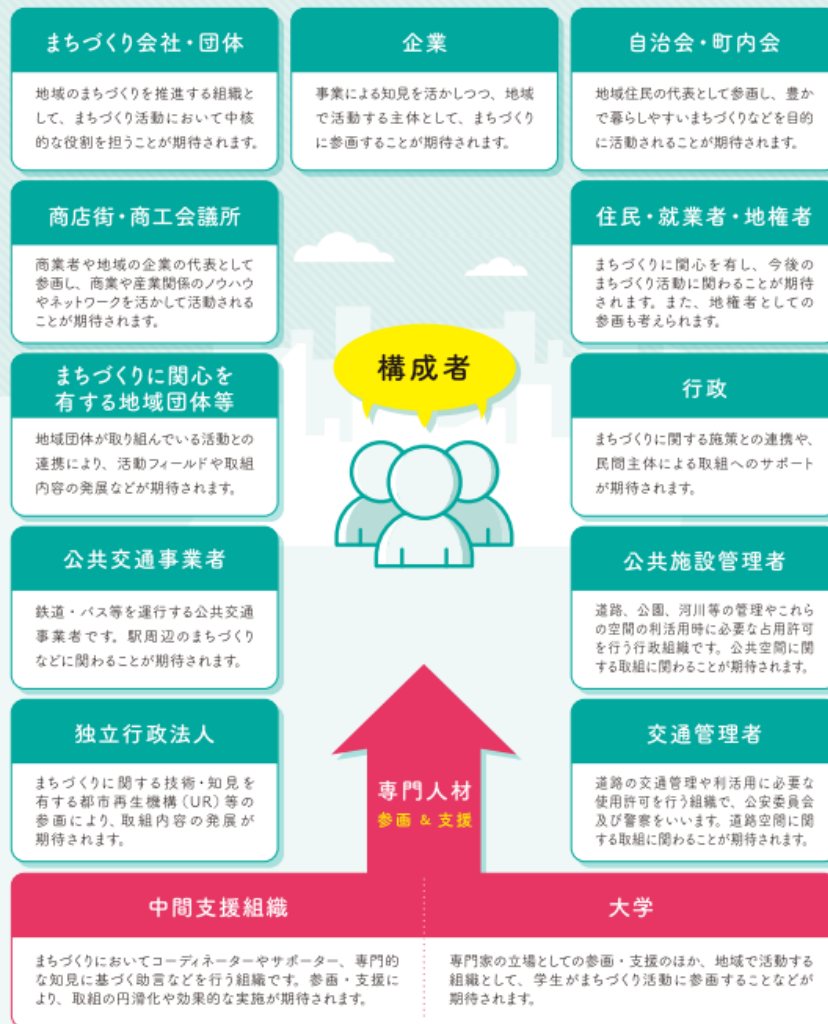


表：事業スケジュール（想定） ※事業主な内容・予算等によって今後変更の可能性があります。

(参考) エリアプラットフォームとは (国土交通省)

エリアプラットフォーム構成者の多様な顔ぶれ

エリアプラットフォームに集う主体(構成者)のうち、ここでご紹介するのは一例です。官民の多様な主体が、まちの魅力向上や自らの活動の活発化など多様な目的で、緩やかに集まっています。



基本的なイメージを知る

エリアプラットフォームって何だろう？

行政をはじめ、まちづくりの担い手であるまちづくり会社・団体、まちづくりや地域課題解決に関心がある企業、自治会・町内会、商店街・商工会議所、住民・地権者・就業者などが集まって、まちの将来像を議論・描き、その実現に向けた取組(=まちづくり)について協議・調整を行うための場が、エリアプラットフォームです。

「エリアプラットフォーム」とは、おおむね以下の要件が揃った協議の場です



エリアに関わる様々な仲間と集まり協議をする



まちづくりに関する実績を有する専門人材からの支援を受けている



エリア価値の向上・将来像の実現が目的



緩やかな協議の場(プラットフォーム)